

4

周辺道路への効果（リダンダンシーの確保）

静清バイパスは静岡市街地北部を通過する1次緊急輸送路として、東海地震等の災害時には、**緊急輸送路のリダンダンシー（代替路）の確保**に貢献します。

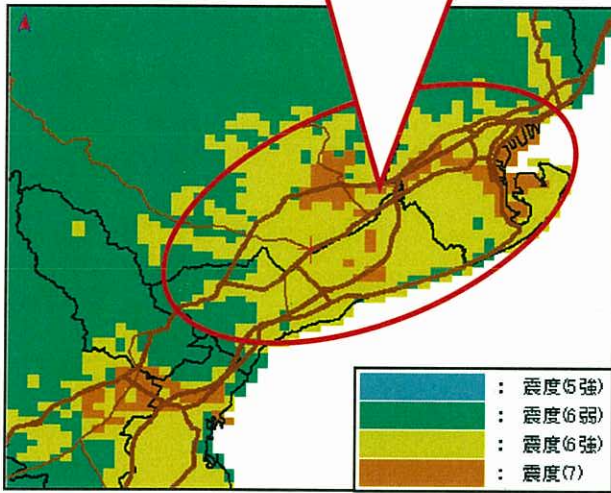
※緊急輸送路：災害発生時には、救助・救急・消火及び緊急物資の輸送などの応急活動を担い、日常生活を営む上でも重要な役割を担う道路

※1次緊急輸送路：高規格幹線道路、一般国道等広域的な重要路線およびアクセス道路で輸送の骨格をなす道路

東海地震時の推定深度分布

※資料：第3次地震被害想定結果（静岡県防災局ホームページ）

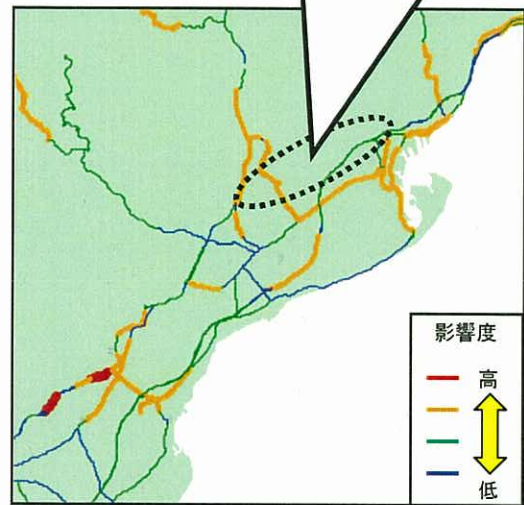
静岡・旧清水市街地は、**ほぼ全域が深度6強以上の被害**



東海地震時の緊急輸送路への影響度

※資料：第3次地震被害想定結果（静岡県防災局ホームページ）

静清バイパスへの影響度は低い



リダンダンシー（代替路）の確保

※資料：静岡市地域防災計画（緊急輸送路）

静清バイパスが代替路として機能



静岡市は、安倍川・藁科川といった河川によって地域が分離されていることから、河川を渡るための交通が橋梁に集中します。

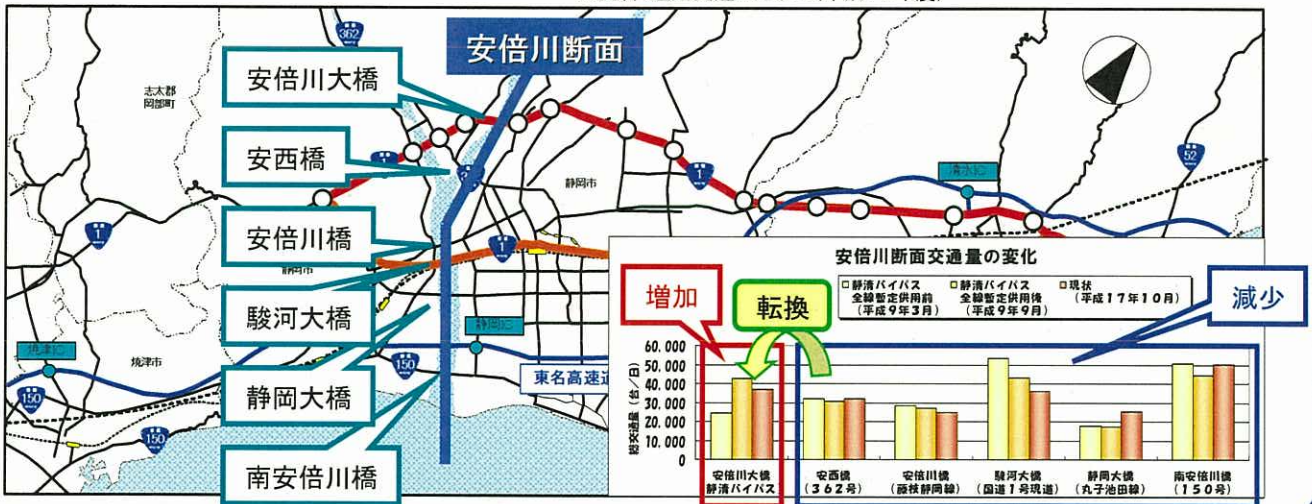
静清バイパス全線暫定供用によって、安倍川を渡る交通が安倍川大橋（静清バイパス）に転換し、**安倍川に架かる全ての橋梁において交通状況が改善**しました。

また、東西方向の幹線道路である北街道では旅行速度が概ね改善するなど、静清バイパス全線暫定供用による効果が、周辺道路に広く発揮されています。

※現在、安倍川に架かる橋の平均交通量(34,461台)は、静岡県全域の平均交通量(11,771台)の約3倍となっています

安倍川断面での交通量の変化

※資料：静清バイパス開通半年における整備効果について
※資料：道路交通センサス(平成17年度)



北街道(静岡清水線)の走行性の改善

※資料：道路交通センサス(平成6・9・17年度)



□ 静清バイパス全線暫定供用前 (平成6年10月)
■ 静清バイパス全線暫定供用後 (平成9年10月)
□ 現状 (平成17年10月)

